



医学から文学へ

# 魯迅の遺した6冊の講義ノート

解剖学

脈管学

組織学

五官学

病変論

有機化学

注意

此冊中訂正箇所あり

## 魯迅と藤野先生

「解剖学ノート」寄贈記念 国際シンポジウム

第1部 演劇 遠い火 - 仙台における魯迅 - (劇団 仙台小劇場)

第2部 国際シンポジウム 魯迅と仙台

孫 郁 (北京・魯迅博物館長)

黄 喬生 (北京・魯迅博物館長補佐)

花登 正宏 (東北大学大学院文学研究科教授)

坂井 建雄 (順天堂大学医学部教授)

大村 泉 (東北大学・魯迅研究プロジェクト代表)

\* コーディネーター 阿部 兼也 (東北大学名誉教授)

日時 2006年2月18日(土) 13:00~17:00

会場 仙台国際センター 白檜

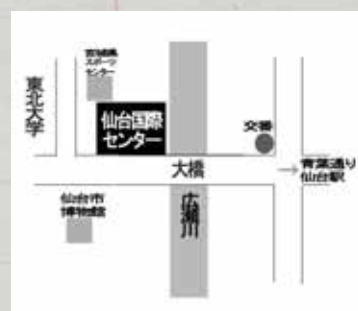
主催 東北大学・仙台市 \* 入場無料

「魯迅と仙台」展

仙台市博物館1F ギャラリー  
2006年1月25日(水)~2月19日(日)

「魯迅・解剖学ノート」パネル展

せんたいメディアテーク2F・3F  
2006年1月25日(水)~2月19日(日)



中国の文豪・魯迅が仙台医学専門学校（現・東北大学医学部）に留学していた際に記した「解剖学ノート」全6冊の電子版が、2005年12月、魯迅博物館（北京）から東北大学に寄贈されました。解剖学、脈管学、組織学など総数1806頁（枚）にもものぼるものです。魯迅は、医学専門学校に在籍中、解剖学を教えていた藤野巖九郎教授から毎週ノート提出を求められ、添削指導を受けていました。その様子は、作品『藤野先生』にも書かれているとおりで、「脈管学」のノートにはどのページにも多くの朱筆が加えられ、当時の指導の様子がうかがえます。現在、中国では国家一級文物（国宝）の指定を受けており、これまで、中国人研究者も容易に近づけなかったものです。魯迅研究にとって貴重な資料であるだけでなく、明治時代における医学教育や、学術交流を研究する上でも重要な資料であることは間違いありません。

これに先だって、2005年9月27～28日、魯迅博物館（北京）において、国際シンポジウム「魯迅の起点：仙台の記憶」（主催：東北大学、魯迅博物館、在中国日本大使館、仙台市）が開催され、その際に「解剖学ノート」寄贈の申し出がありました。

この寄贈を記念して、東北大学と仙台市は、孫郁魯迅博物館長、黄喬生同館長補佐を仙台にお招きして、「『解剖学ノート』寄贈記念国際シンポジウム：魯迅と藤野先生」を開催します。シンポジウムでは、日中文化学術交流の原点ともいべき魯迅「解剖学ノート」の本格的な最初の研究成果を報告・討論します。

また、シンポジウムの前には、仙台小劇場が「遠い火」と題して、仙台を舞台に藤野先生や仙台市民との関わりから、地鳴りのように揺れ動きだす魯迅の精神を構成・ドラマ化した創作劇を上演します。

私が筆記したノートを提出すると、先生はそれを受け取って、二、三日して返してくれた。そして、今後、週に一度は持って来て自分に見せるようにと言った。それを持って帰り、開いてみて、私はあっと思った。同時に、一種の心苦しさと感激とを覚えた。私のノートには初めから終わりまで一面に朱筆が加えられ、書き落としたところがすべて埋められていたばかりでなく、言葉遣いの誤りまで、いちいち訂正してあったのである。これは先生が担当していた授業 骨学、血管学、神経学が終了するまで、ずっと続いた。

## パネリスト&演題

- 孫 郁 中日における魯迅研究の現状  
黄 喬生 善意と温情～魯迅と仙台～  
花登 正宏 魯迅の経済的生活  
坂井 建雄 解剖学ノートが語る医学生魯迅  
大村 泉 魯迅『解剖学ノート』と作品『藤野先生』  
～東北大学魯迅研究プロジェクト紹介～

## NPO法人 劇団 仙台小劇場

結成35年を越えた仙台の老舗市民劇団。学生・会社員・公務員・教師・主婦など10代から60代にいたる幅広い年齢層から構成され、結成当時より、地域に愛される劇団を目指し、地域の物語を積極的に舞台化している。教育、環境問題をはじめとして、地域の要請に応えるユニークな舞台づくりを続け、二度の海外公演も行っている。

## 仙台国際センターまでの交通機関

仙台市営バス：仙台駅前（西口バスプール9番乗り場）  
「宮教大・青葉台」、「宮教大」、「宮教大・成田山」、「動物公園循環 青葉通・工学部経由」乗車 博物館・国際センター前下車



「魯迅と仙台」  
東北大学出版会 2004/05年

## 問い合わせ先：

東北大学学際科学国際高等研究センター内  
魯迅研究プロジェクト 022-795-5763  
e-mail: rojin\_sendai@yahoo.co.jp